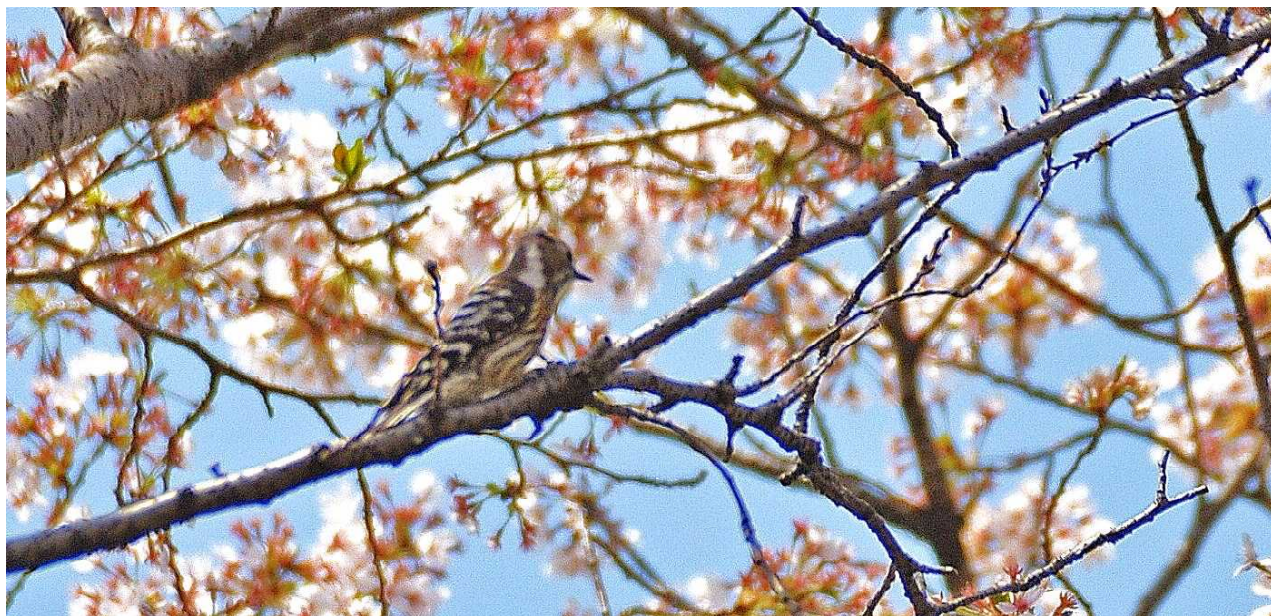


校庭の野鳥:コゲラ



2014年4月9日(水) 12時10分頃、生徒が校庭の桜の樹でコゲラ(キツツキの一種)を発見。おそらく、佐高で見られる野鳥としては**初記録**であろう。

阿部先生によると、生物の授業で桜を観察している時、桜の樹の上の方から、**ギーと戸がきしむような音**が聞こえてきたそう。一瞬、カエルの鳴き声?と思ったが、もしかしたらキツツキの鳴き声かもしれないという考えが頭をよぎり、生徒とその声の主を捜したところ、生徒がその姿を発見した、というのである。5mくらいに近寄っても逃げなかったそう(写真上)。

コゲラの英名は“**Japanese Pygmy Woodpecker**”(Pygmy=ごく小さい、Woodpecker=キツツキ)であり、文字通り「**日本の小さなキツツキ**」を意味する。日本野鳥の会のHPには、「スズメ大で、ギーと戸がきしむような声。全長:15cm。太い木や古い木があれば、住宅地や公園でも見られるようになってきた。」とある。コゲラは、日本で最も身近なキツツキなのである。

ところで、校庭の桜の樹にいたコゲラは、いったい何をしていたのだろうか。阿部先生によれば、桜の樹にいたコゲラは**1匹だけ**で、放課後、もう一度探しにいったら見つからなかったそうである。そうすると、校庭で営巣しているわけではなさそうである。一つの推測として、近くの**朝日森神社**の古木などに巣があり、たまたま**エサを探しに**校庭の桜の樹に来ていた可能性がある。今のところ、真相は不明であるが、今後、校庭でコゲラを見かける機会は増えるかもしれない。そう考えると、とても楽しい発見である。



コゲラを観察する生徒達(5mくらいに近寄っても逃げなかった)